

VII. WG 活動報告

1:急性骨髄性白血病(AML)【小児】

1. WG メンバーリスト

氏名	所属	診療科
責任者 工藤 寿子	地方独立行政法人 静岡県立病院機構 静岡県立こども病院	血液腫瘍科
多賀 崇	滋賀医科大学附属病院	小児科
富澤 大輔	東京医科歯科大学医学部附属病院	小児科
岡本 康裕	鹿児島大学病院	小児診療センター 小児科
田淵 健	がん・感染症センター都立駒込病院	小児科
石田 宏之	京都府立医科大学附属病院	小児科
坂口 大俊	名古屋第一赤十字病院	小児医療センター 血液腫瘍科
岩崎 史記	神奈川県立こども医療センター	血液・再生医療科
長谷川 大一郎	兵庫県立こども病院	血液腫瘍内科
清水 崇史	東海大学医学部附属病院	小児科・細胞移植科
足立 壮一	京都大学医学研究科	人間健康科学系専攻
渡邊 修大	社会保険中京病院	小児科
村松 秀城	名古屋大学医学部附属病院	小児科
小嶋 靖子	東邦大学医療センター大森病院	小児科学講座
宮村 能子	大阪大学医学部附属病院	小児科
吉原 宏樹	聖路加国際病院	小児科

2. 承認研究の進捗状況(2013年1月-12月 ※JSHCT2014を含む)

1-1	「小児 AML における第 2 寛解期再移植例の成績と再移植の意義」 PI: 多賀崇
学会発表: 済(WG 研究業績一覧参照)	
論文業績: 執筆中	
1-2	「非寛解期小児 AML における移植成績」 PI: 岡本康裕
学会発表: 済(WG 研究業績一覧参照)	
論文業績: 執筆中	
1-3	「ダウン症候群に合併した急性骨髄性白血病に対する造血幹細胞移植の成績」 PI: 村松秀城
学会発表: 済(WG 研究業績一覧参照)	
論文業績: Muramatsu H, Sakaguchi H, Taga T, Tabuchi K, Adachi S, Inoue M, Kitoh T, Suminoe A, Yabe H, Azuma E, Shioda Y, Ogawa A, Kinoshita A, Kigasawa H, Osugi Y, Koike K, Kawa K, Kato K, Atsuta Y, Kudo K. Reduced intensity conditioning in allogeneic stem cell transplantation for AML with Down syndrome. <i>Pediatr Blood Cancer</i> . 2013 Dec 2. doi: 10.1002/pbc.24883. [Epub ahead of print]	
1-4	「小児 AML に対する自家移植の解析」 PI: 坂口大俊
学会発表: 済(WG 研究業績一覧参照)	
論文業績: 執筆中	

1-5	「小児・思春期 AML 第一, 第二寛解期に対するアロ造血幹細胞移植前処置の影響」 PI: 石田宏之
学会発表: 済 (WG 研究業績一覧参照) 論文業績: 投稿中	
1-6	「初回寛解期小児急性骨髄性白血病に対する自家骨髄移植を含めた造血幹細胞移植の意義を検証する臨床決断分析」 PI: 長谷川大一郎
学会発表: 長谷川大一郎他、第36回日本造血細胞移植学会総会 (2014年3月7日-9日) 沖縄コンベンションセンター 論文業績:	
1-7	「t(8;21)および inv(16)異常を有する小児急性骨髄性白血病に対する造血幹細胞移植の成績」 PI: 村松秀城
学会発表: 済 (WG 研究業績一覧参照) 論文業績: 執筆中	
1-8	「11q23 異常を有する小児急性骨髄性白血病に対する造血幹細胞移植の成績」 PI: 宮村能子
学会発表: 宮村能子他、第36回日本造血細胞移植学会総会 (2014年3月7日-9日) 沖縄コンベンションセンター 論文業績:	

3. 会議開催記録 (2013 年 1 月-12 月)

日時	場所	会議内容
1 月 14 日 (月祝日)	国立がん研究センター	研究課題の進捗状況、JSHCT 総会時の各 WG の活動報告について検討し、小児 ALL WG と共同研究についての提案がなされた。臨床決断分析モデルの expert opinion を造血細胞移植学会評議員の方にお問い合わせすることとした。
7 月 7 日 (日)	名古屋第一赤十字病院	新規 WG メンバー挨拶、研究課題の進捗状況、新規研究課題「11q23(MLL)異常を有する AML」について検討した。解析の終わった「小児急性白血病における BU 製剤(経口か静注)による比較」について報告があった。JPLSG SCT 委員会にてプロトコール作成中の AML RIST12 について説明があった。
11 月 30 日 (土)	九州医療センター	研究課題の進捗状況、二次調査を必要とする新規研究課題、成人 AML WG との共同研究について検討した。

4. メーリングリストによる意見交換 (メーリングリスト開設から 2013 年 12 月末時点まで)

(458) 回

5. WG の今後の活動方針・抱負など

<p>1) 成人 AML WG との共同研究として AYA 世代の初回移植例の解析を進める。既に学会発表の終了した研究課題については、各担当者が中心となって共著者とともに議論を深め、論文化を目指す。</p> <p>2) 日本小児白血病リンパ腫研究グループ(JPLSG) AML RTST13 との共同研究や AML-05 登録期間中の初回移植例の二次調査を検討中である。</p> <p>3) 小児 AML 治療における移植の位置づけや晩期障害も考慮したがん経験者の QOL にも目を向け、よりよい移植医療の構築に貢献したいと考える。</p>
--